



近代文学方法論講義
作家論・作品論から一テキスト論へ

1

作家論の根拠の薄弱性

- ①、作家の残した文章（日記・雑記・エッセイ等）
- ②、作家の親族や知人の証言
- ③、作家の伝記事項
- ④、作家の原稿の校正過程
- ⑤、作家の生きていた時代・場所・環境

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

2

作家論への疑問

- ①、作家の残した文章（日記等）
作家は日記が公開される可能性を知っている
そんな日記に本当のこと書くか？
- ②、作家の親族や知人の証言
人の記憶ってそんなに正確か？
同じ出来事が人によって記憶が違ってしまうことない？
- ④、作家の原稿の校正過程
過程から結果ってわかるか？
- ⑤、作家の生きていた時代・場所・環境
人って時代に従順な場合も逆らう場合もあるよ

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

3

各国で反作家論が生まれ

 ドイツ 読者論（受容理論） ヤウス・イーザー など	 イギリス 新批評（ニュー・クリティック）
従来の作家論	
 フランス テキスト論（R・バルト など）	 日本 作品論（三好行雄 など）

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

4

日本の作家論・作品論の争い

- ①、作家の伝記から、作品を解釈する
作家論 従来の実証主義
- ②、作品から、作家の思想へ近づく
日本近代文学の東大教授
作品論 提唱者 三好行雄

②は、①を否定しないで、共存してしまう。

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

5

三好作家論は、再生産されてゆく

三好行雄の大学院授業

東大

弟子は当然、作家論！

その弟子も作家論！

弟子A

地方国公立
私立

弟子B

旧帝国代
(東大、京大、筑大、立大、九大)

弟子C

東大を中心とした近代文学王国

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

11

文学部という制度の崩壊

①、メインのお客さん (女子大生) の実学思考

就職に役立つ学問へ

②、文学読者の減少

様々なエンタ小説

マンガ・映画・ドラマなど多様な方向へ

③、**テキスト論**という新しい潮流

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

12

ロラン・バルト

ロラン・バルト (Roland Barthes, 1915年11月12日 - 1980年3月25日) はフランスの記号学者、思想家。高等研究実習院 (École pratique des hautes études) 教授、コレージュ・ド・フランス教授。ソシュール、サルトルの影響を受け、エクリチュールについて独自の思想的立場を築いた。

歴史家にとどまらないミシュレの活動に着目した『ミシュレ』、「作者の死」の一編を取めた『物語の構造分析』、フランスのさまざまな文化・慣習を分析した『神話作用』、衣服などの流行を論じた『モードの体系』、バルザックの中編を過剰に詳細に分析した『S/Z』、自伝の形をとりながら自伝ではない『彼自身によるロラン・バルト』、写真を「アクトゥム」という概念などで論じた遺作『明るい部屋』など、その活動は幅広い。1980年に事故死。



Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

13

バルトって誰？

教師・文人・モラリスト・文化の哲人・有力な思想の鑑定家・変幻自在の自伝作家……ロラン・バルトは第二次世界大戦後に出現した知識人の中で、その著作が不朽のものとなると確信しうる人物である。

スーザン・ソングク 『バルト選集』 (一九八二)

バルト自信が定義困難＝バルトもテキスト

多才の人物、(二) 文学史家、(三) 神話分析家、(四) 批評家、(五) 論争家、(六) 記号学者、(七) 構造主義者 (八) 快楽主義者、(九) 作家、(十) 文人

ジョナサン・カラー 『バルト』

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

14

作者を考えちゃいけないの？

あるテキストにある「作者」をあてがうことは、そのテキストに歯止めをかけることであり、ある記号内容を与えることであり、エクリチュールを閉ざすことである。このような考え方には、批評にとって実に好都合である。そこで、批評は、作品の背後に「作者」(またはそれと三位一体のもの、つまり社会、歴史、心理、自由)を発見することを重要な任務としたがる。「作者」が見出されれば、<テキスト>は説明され、批評家は勝ったことになるのだ。

×

×

作者＝偶然に残された資料から恣意的に立てられた命題

「作者の死」

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

15

作者を考えちゃいけないの？

機能としての作者は言説の世界を取り囲み、限定し、分断する法的制度システムに結びつく。それは、あらゆる言説の上で、あらゆる時代を通じて、文明のあらゆる形態において、一律に同じ仕方で作作用するものではない。それは、ある言説をその産出者へと自然発生的に帰属せしめることによって定義されるのではなく、特殊で複雑な一連の操作によって定義される。それは、純粋かつ単純にある現実の個人に送り返すのではなく、複数の自己、分類を異にする個人が占有しにやってくることのできる複数の立場＝主体を同時に成立せしめうる。

ミシェル・フーコー「作者とは何か」

「作家論」とはきわめてフィクショナルな形勢しか存在せず、「作家」を論ずるということは「作家」の言説をめぐる一つの物語を作り上げることでありといわざるを得ない。

「作家論」高橋修『読むための理論』

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

16

バルトの反作家論

しゃべること パロール 発語行為
書くこと エクリチュール 書記行為

※ 「エクリチュール」は、実際には、「書かれたもの」という意味ももち
しかし
「スタイル＝文体とは意味が違ふ」

教科書 テキスト
テキスト 織物 (テクスチャー) が語源
テキストとテクストは意味が違ふ

※ テキストは、引用の織物という意味
織物は縦糸と横糸を持つ

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

17

バルトの反作家論

芥川龍之介 の 文章、文体 (スタイル)
芥川龍之介 の エクリチュール
『羅生門』 という 作品 (WORKS)
『羅生門』 という テキスト (TEXT)
『羅生門』 という テキスト (教科書)

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

18

エクリチュール (書記活動)

言語は水平的次元、文体は垂直的次元であり、二つが合わさって作者に一つの自然の地図を描く。なぜなら、彼はどちらも選択するわけではないのだから。……前者において作者は歴史というよくわかっていてるものを見出し、後者においては個人の過去というよくわかっていてるものを見出す。両方とも、彼は一つの自然を扱うのである。

『零度のエクリチュール』

Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

19

バルトの言う 作品 (WORKS) とは

作品は物質の断片であり、図書館の空間の一部を占めるもの、また本屋のなかで、カード箱の中で、試験科目の中で遭遇されるものである。



作品＝作品を生みだした唯一の作者へ
→ 作品を支配 → 文学史を組織 → 伝記の対象



Dr. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

20

「テキスト」論の成立

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 2014

哲学
現代思想
批評理論
社会学

作者  断  テキスト

 テキスト
読者

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

26

ミロのビーナスの場合 (テキスト論の実例)

好きな
Aさんの美を
永遠に
残そう!

作家論

作品論

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

27

テキスト論になると

作者の意図

断   

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

28

テキスト論になると

断 

ミロのビーナスは、
偶然腕がなくなったんだけど
腕がなくなったから
そこに
想像上の
全ての美しい腕が接続できる
最高に美しい腕をもった

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

29

テキスト論になると

断 

なくすのは、
腕=手 でないと いけない
なぜなら
手 は、人間の実存を示す部位

人間の实存 とは
交渉する
ということ

Dr. ヒッキー 日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

30
